

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 6 月 24 日

【評価実施概要】

事業所番号	2170102491		
法人名	社会福祉法人 みどり福祉会		
事業所名	グループホーム 北山		
所在地	岐阜市北山1丁目15番25号 (電話) 058-244-1210		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成20年6月10日	評価確定日	平成20年7月24日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、田や畑等自然が豊かで、鳥の姿や鳴き声がのどかに感じられる場所にある。同法人のケアハウスの1階にあるホームで、ヘルパーステーション、地域交流センターが併設され情報交換や合同での行事等を行っている。近隣に法人の病院、診療所、訪問看護ステーションがあり、連携が密に図られ、利用者や家族から安心を得ている。また、周辺に薬局や介護タクシー営業所もある。ホームは非常勤職員が多いが、管理者はじめ職員は、熱心で、チームワークが良く、それぞれ責任を持って利用者を支援している。ホームが閉鎖的にならないように、地域との係わりを継続し、利用者の思いや希望を大切に支援の提供に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）</p> <p>前回評価での改善課題を真摯に捉え、運営推進会議や全体会議にあげ職員間で共有し、改善に取り組んでいる。法人新施設開設でホーム管理者が交代したが、運営方針の継続、より具体的なケア方針を決め、地域と共にあり、利用者が自由に地域に出かける支援の継続につとめている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）</p> <p>職員は評価の意義を理解しているが、今回の自己評価は、職員の勤務体制のこともあり、管理者が職員から聞き取りしながら行った。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6）</p> <p>利用者家族の代表、自治会連合会や民生委員児童福祉協議会支部の役員、市や包括支援センターの職員、法人事務局長や管理者がメンバーとなり、2ヶ月毎に地域交流センターにおいて開催している。地域の方にホーム利用者や暮らしを理解してもらえるように、また、協力を求める働きかけをしている。委員の中には、ボランティアでホームを訪問する人もある。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8）</p> <p>家族からの意見は直接会話をして受け止めたいとし、家族の訪問時をとらえ、短時間でもと、居室での対話に取り組んでいる。外部団体の相談窓口を紹介したり、3ヶ月ごとの便りの発送にあわせ、家族の意向を尋ねるアンケート用紙も送っており、家族の声を運営に反映させている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）</p> <p>運営推進会議をきっかけにホームのことを知り、ホームにボランティアに訪れる人もある。1人での散歩を希望する利用者と地域の人が顔見知りになり、声掛けしてもらえる関係もできてきた。</p>
重点項目④	

【情報提供票より】 (平成 20 年 5 月 21 日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	15 人	常勤	3 人, 非常勤 12 人, 常勤換算 7.7 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	4 階建ての	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (平成 20 年 5 月 21 日 現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名	
要介護1	2 名	要介護2	1 名			
要介護3	2 名	要介護4	1 名			
要介護5	2 名	要支援2	1 名			
年齢	平均	87 歳	最低	82 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	みどり病院、すこやか診療所、下有知歯科、鈴木歯科
---------	--------------------------

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの生活に対しては「利用者、職員が本音で向き合える関係作り」を、地域に対しては「社会参加を通して人間、自然、地域共生を目指したホーム作り」と、それぞれ理念をあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、非常勤職員が多い職場であることに配慮し、全職員が参加しやすい会議の開催やミーティングにおいて話しあっている。職員心構えに記載、ホーム内掲示により意識の統一を図り、理念の実現に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設前に住民アンケートを行い、地域住民との関係を大切にしたい運営方針で立ち上げたホームも5年が経ち、利用者が地域を散歩する折に、声をかけてもらえたり、校区の盆踊りや保育園行事に招かれたりと、直接の係わりが持てる付き合いができてきている。	○	ホーム周辺における1人での散歩や地域スーパーへの1人での買い物等の支援が行われている。この支援の今後の継続や利用者の安全支援の為に、地域住民との協力が1人でも多く得られるよう、機会あるごとに働きかけることの継続も期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ホーム職員は、週3～4日間で1日5時間の勤務体制の非常勤職員が多く、時間的配慮も難しいことから、今回の自己評価は、管理者が職員からの聞き取り後、記載した。	○	自己評価は、提供しているケアサービスを振り返る機会でもあることから、全職員が参加できる形を取り入れ実施できるような工夫が期待される。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表、自治会連合会や民生児童福祉協議会の役員、市や包括支援センターの職員、法人事務局、管理者と多くの関係者で2ヶ月に1回開催している。開催を機に、委員がボランティアで訪問したり、民生委員の会議に管理者が出席する等交流が広がっている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議を通し、定期的な話し合いを行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者家族の面会は、平均月2～4回で、多い方は20回程ある。毎月の金銭収支報告と、3ヶ月に1回、「利用者個々の日常生活、身体状況、精神状態、他の方との交流、楽しみ・リハビリ」等について記載した便りを担当職員の手書きで作成し、郵送している。	○	3ヶ月ごとに作成し報告している便りは、詳細であるが、家族からは読み取りにくい表記や家族の希望する情報の報告が見あたらない場合もある。報告紙面の工夫等、検討が期待される。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪する家族が多く、利用者家族と直接話を聞くことを大切にし、短い時間でも居室で話している。3ヶ月に1回の報告書の送付時に意見用紙（アンケート）を同封し、返信してもらっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職率は低い。新施設開設のとき異動があったが最小限に抑え実施された。前職員がホームに顔を出したり、利用者が20分ほど離れた新施設にある喫茶に、月1回は出かけたりと交流の継続が図られている。	○	職員の異動ではないが職員の勤務体制からか、家族からの伝言の行き違いが、家族には、職員の入れ替わりの多い日常に映っているので、配慮されたい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は法人の研修計画により行っており、ホーム内研修や勉強会が主となるが、外部研修についても広く情報提供している。	○	今後は、利用者の高齢化や身体機能の低下、認知症以外の疾病の管理等、支援内容が多くなることに配慮し、内部研修の充実が期待される。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、2~3ヶ月に1回開催される東部地区のケア委員会に参加し、交流を図っている。他のホームの管理者と相互訪問があるが、職員間の交流までには至っていない。	○	近隣の施設との行事等での交流を図りたいとする取り組みに期待する。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用の申し込みは、ケアマネジャーの紹介や併設施設の利用者も多い。管理者は入居前に利用者の住居を訪問し、家族や関係者からの話を聞いている。体験入居の受け入れ経験もあり、利用者自身にもホームの生活が合うかの判断をしてもらっている。徐々にホームに馴染んでいけるよう全職員で支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、若い年代と経験をつんだ職員がバランスよく配置され、利用者との係わりの中でも利用者の喜怒哀楽を引き出せることが多い。共に過ごす時間を大切にする中で、心を開いてもらえる関係となり、親である思いや大切にしてきた習慣等を教えてもらっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の暮らしの中で、本人の性格や特徴を理解し、把握に努めている。会話や表情、発せられる声等から本人の思いを受け止め、職員間で話し合い共有もしている。視力と聴力の機能が低下した利用者の思いを理解しようと家族の意見を聞き、気づきに努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族のホーム訪問時の話しあいやケアの中で本人と職員の日々の寄り添いから気づいたり受け止めたことを記載し、会議に持ち寄り計画を作成している。	○	法人の勤務体制もあるが、勤務時間の短い職員が多いので、利用者家族との関係性の構築につながるような更なる工夫が期待される。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に見直すと共に、高齢化、重度化に伴い、随時、計画を見直している。15名の職員で対応することから方針やケアの方法を統一し、計画や記録に記載し、計画作成時に確認している。家族の訪問時に報告したり、郵送で同意を得ている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設ケアハウスの喫茶を利用したり、ケアハウス利用者と合同でバス旅行や他の行事を共に行う等の交流をもっている。ケアハウスに外部団体相談員の定期的な訪問があり、利用者の家族に利用を勧めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人診療所の医師を協力医とし、月2回の往診がある。法人の訪問看護ステーションや病院も隣接し、連携がよく、健康管理が行われている。内科以外の科にも協力医がある。他の希望する医療機関への受診で家族の介助が困難な場合はホームで支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合、家族とかかりつけ医師、職員、関係機関職員とで方針を共有し、利用者を支援している。調査訪問日の直前に看取りがあったばかりであったが、利用者への影響は感じられなかった。家族、医師、訪問看護ステーション、職員ともよく連絡がとれ、家族の同席のもと看取りが行われた。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	多くの利用者は聞き取りが困難になっていることや他の利用者と共に座っていることが多くなっているため、本人の近くでは声かけのみ行い、移動後に具体的な用件を伝えている。個人記録等は、職員事務所で適正に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩の好きな利用者にはまず付き添い、コースの安全、地域の住民とのかかわり等を把握し、その後1人での外出を支援し、見守っている。また、1人でのスーパーへの買い物、庭のプランターの世話、縫い物等本人の楽しみや好みの継続をできるだけ支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下ごしらえをしたり、食器洗いをしたりとそれぞれ進んで手伝う利用者の姿があった。調理は当番制で職員が作り、彩りよく軟らかめに調理された食事が提供されている。介助を必要とする利用者にも本人のペースでの食事が支援されていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日準備し、基本的に1日おきの入浴を支援しているが、利用者の希望によっては毎日の入浴も支援している。本人の入浴予定日で無い場合も、身体の状態に合わせて足浴等を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	花の水遣り、洗濯物たたみ、食器洗い等本人の希望を踏まえた役割や百人一首・ゲーム等暮らしの中での楽しみ場面を作っている。また、毎月1~2回、法人のバスで桜やバラ、菖蒲、紅葉等を見に出掛けたり、盆踊りや夏祭り等の楽しい外出も実施している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	涼しい時間帯を選び、3~4人のグループや職員と1対1での散歩に出かけている。決まったコースの散歩や買い物を希望する利用者には1人での外出を支援をしている。週2回、併設施設で開かれるボランティア喫茶や母体法人の施設にあるの喫茶にも出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関やリビングの出入り口は、外部が見えないガラスや障子とする工夫があるが、昼間の施錠はない。居室の窓は、安全のため全開できないようにしている所と、自由に庭の花やプランターの世話ができるよう施錠していない所がある等利用者を把握し対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の防災訓練を行っている。緊急時の対応マニュアルの他、配慮が必要な利用者のために緊急時の避難方法も作成している。また、運営推進会議を通して地域への協力を依頼する等の働きかけも始めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝夕は職員が作り、昼食は併設のケアハウスからの外注食が届けられるが、利用者の状況に合せとろみ付けやほぐしをホーム職員で行っている。毎食の摂取量や1日の水分摂取量を個人記録に記入・把握し、栄養バランスや摂取量、水分の確保を支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく風通しの良いリビングには、季節の生花が飾られ、ソファや畳のコーナーでくつろげるようになっている。畳コーナーには、ホームで用意した仏壇があり、毎朝水や花を供えお経を唱える利用者もある。職員の優しい言葉掛けや笑顔が、ホーム内の雰囲気をもさらに良くしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には広い収納があり、不用品がすべて収まり、安全で清潔感がある。壁には、思い出の品や家族写真が飾られ大切な空間となっている。ベランダで花を育てている利用者もある。家族が宿泊する時のために、ホームで寝具を用意してある。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。